
夢で逢えたら

すまいる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢で逢えたら

【Zマーク】

Z26460

【作者名】

すまこる

【あらすじ】

夢の世界“ドリームワールド”と現実の世界を行き来するヒロキ。

幼なじみのミサキ。

奇跡の結末は…絶対見逃す訳にはいけない。

感動のファンタジー＆ラブストーリー！！

(前書き)

新しい世界が見えると思します。
ぜひ読んでみてください。

「す……好きなの。付添ひにはしない。いや……今すぐ結婚して貰
だせ……」

？ハツ！ 夢か……

「ヒロキー」

？おっ、ミサキ。

？隣りの家に住んでる同学年の……つまり

？幼な馴染み。

？そして呼ばれたのはオレの名前。

？ちなみに小学六年生だ。

「早くうー」

？登校班が同じだからなんかオレを迎えてくれるのが田舎になつたみ
たい。

「はいはー。今行くよー」

「最近ミラーな夢を見るんだ。リアル過ぎて現実で起じつてこるよ
うな感じがするんだよ。なんかさ……」
「なによ。この世終わりみたいな顔してー。ヒロキひしくなことよ。
ヒロキだったら楽しむと思うけど」

「だつて夢の中で痛みとか感じるフツー？」

「え、いやーそれは無いかな」

「でしょでしょ？」

「オツハー！」

？え？

？なんか懐かしい響や。

「おはようー！」

夏休み明けの教室が盛り上がっている。

「おいおい。あの番組見た？」

「そんでさ、ノゴギリクワガタがわ

？TVの話や旅行の話、探検したとかいう話やらわんわんとか飛び交つてこる。

「ヒロキも見るか？ 僕の血腫の「コレクション」

？ついに俺も引き込まれた。

「うわ！ すげーじやん！」

「だろ？ だろー？」

「ほらほらー 席着きなさいー。」

？教室中の話に強制終了がかかった。

「はーい……」

「へーい……」

「おー。皆揃つてるな。どうした？ 持ち物に元気な笑顔つて書いておいたけど？」

「先生、それ先生に没収された気がします」

「ははつは。そりや悪かったな。でも先生はちゃんと持つてきただぜ

? 鮎はしりーとした田で見つめたやつた。

「じゃあ宿題を出してもらおつかな」

? 鮎はしりーとした田で見つめた。

「校長せんせーのお話」

? 元気の良い同僚が頭を光らせているモンスターを冗談した。

「えー、おはよー」「やれこめや」

「おはよー、いざこます」

? 気の抜けるような返事がモンスターを苦しめる。

? しかしモンスターは負けなかつた。

「おはよー」「やれこます！！」

「……えー、一ヶ月ぶりにまた元気な旨に会えて嬉しい限りです。

先日こんな記事を見つけました……」

? 鮎はモンスターの繰り出す呪文に耐えたのであつた。

「では明日も元気な顔を見せてくれだせこ、やめないうち
「わよーなり」

「ヒロキー、一緒に帰ろー」

? ミサキが駆け寄つてくる。

? なんかヒューヒュー聞こえた気もするがまあしゃーないし。

「おつけーおつけー」

? 体の弱いミサキを家まで届けるよいハサキのねねさん頼まれていたのだ。

? あいつはわざと学校でモテるから嫉妬深い声が矢のよつて突き刺される。

? でも頼まれたからにはしゃーない。

「じゃーね。また明日ー」

? ニサキが家に入つて行くとニサキのお母さんが家から顔をだして

「ヒロキ君、今日もありがとーー」

? いつものお礼の言葉をもらつてオレは家に入つていつた。

「ここはどこだー?」

? オレは今、夢の中。

? リアル過ぎる夢の中に飛び込んだ。

? 今日は恐竜がいる時代に来たみたい。

? 森の中から首を出している恐竜に怯えながら状況をつかんだ。

「よぐぞ来てくれた、今回は恐竜を退治してもいい」

? 紳士な服装のおじいさんが突然訳のわからぬ事を言つてた。

「安心してくれ。このドリームワールドでは確かに痛みや疲れは感じるが、地球上にいる君にはなんの影響もない。まあ、ドリームワールドの君と地球の君は別々だと思つてくれ。君はワシが選んだドリームヒーロー“夢の英雄”の候補だ。ぜひ我がドリームワールドを救つてくれ」

? 当然の如くオレの頭はパンクしそうになつた。

? なに言つてるんだこのおっさん、

まあ夢だしこんなこともあるか。

「なんか良く分からぬけど頑張つてみるよ」

「おー！ そーかそーか、では君をドリームヒーローに任命するわ。これから健闘を祈る。早速じゃが、今回はロレを使ってくれ」

? そこに置いてあつたリュックにはナイフやらロープやらなんかゲームで見たことある様な道具が入つていた。

「うわー！ カッコいいじゃん」

…… そりいえば恐竜を退治するんだっけ。

「つで、 なんで退治しなきやいけないの？」

？おじいさんは振り返って言つた。

「そつちで言う人間の一種に進化するであらう生物、ワシらの言つ“ホープ”の生存がここで確認されたからじや。別に退治しなくてもよい。ホープの安全を確保してほしいのじや。恐竜が作りあげる悲惨な世界はもう見てはいられないからのー」

「なるほど。了解しました」

？ そり言つとリュックを背負つて走り出した。

「ハア……ハア……」

？ ヒロキは川に辿り着くと夏の様な暑さに耐えきれず川の水を飲みだした。

「サンキュー自然！」

？ ここで一休みすることにした。

？ バッシャーン！

？ 暫くするとなんと川から恐竜が現れた。

「な！ 何で川から恐竜が！」

？ しかしヒロキには考へてる余裕が無かつた。

？ 恐竜が急に暴れだしたのだ。

？ どうしたことか。

？ その原因はすぐに分かつた。

？ ホープであるう生物が恐竜の背中に槍を刺していたのだ。

？ 恐竜の血が川を染めていく。

？ しかし、 恐竜は反撃を始めた。

? ホープはすぐさま傷だらけになつた。

? いきなりの出来事に体が硬直していたヒロキだったが、すかさずリュックからロープを取り出し、木に結びつけ、そしてもう一方をホープめがけて投げた。

? それはうまい具合に近くに落ち、

ホープはふらふらしながらもロープにしがみつく。

「よいっ……しょ」

? 川の水のお陰で案外素早く引き上げる事が出来た。

「大丈夫か！？」

? そう言つて駆け寄り、抱きかかえて木陰まで運んだ。

? ホープの姿はまるで人間の様であつた。 手や、足の形が若干違うだけであつた。

? ヒロキはリュックから救急箱を取り出し手当てを始めた。

? 医者である両親をもつヒロキにとって、傷の手当てなんて容易いものであつた。

? ちょうど手当てを終えた頃、ホープは意識を取り戻し始めた。

「？ー、？ー」

? 苦しそうな声で威嚇されたような気がした。

? 敵意識を持たれているのだろうか。

? ヒロキは笑顔を作つてホープの頭を撫でてみた。

? するとすこし安心した様子であつちも笑顔を見せた。

? そして交わされる握手。

? ヒロキはホープをおじいさんの所へ誘導した。

「おー！ 良くやつてくれた。ありがとうー。さすがドリームヒーローだのー」

「お役にたてて光榮です」

「 ュ ？」

？突然ホープが言葉を発した。

「 」

？おじいさんが返事をする。

「実はのー、ワシもかつてホープと呼ばれる存在だったのだよ。今は、色々あつてそつちの世界の言葉を話せているのじやが、本来はこの文字を並べて話していたんじや」

「つじことは、この人？」と仲間つてこと？

「やうじうじじじ。ワシは仲間の中で一人だけ急速に成長してしまつてのー。他のホープを育てるのがワシの使命といつたところか」

？その後、おじいさんとホープの会話が続いた。

？そして会話が終わるとおじいさんが言つた。

「ワシはこいつと一緒に仲間を探す旅に出る」とこした。恐竜を超えるような強い組織を作り上げるためにな。その時にはお主に精一杯のおもてなしをしなければな、じゃあのーありがとうな」

？一人はそう言つとオレの前から立ち去つた。

「ヒロキー！ 起きなさい！」

？おつと、いけね。

「今回もまたリアルな夢だつたなー、しかも楽しかつた」

？何となくロープを投げるマネをしてみる。

「なにやつてんのよ、ミサキちゃん來てるわよ

「え！」

？慌てて着替えて、パンをくわえた。

「おっ。いい食感。……つて言つてる場合か！ 行つて来まーす！」

「遅いぞーヒロキー。アンタは亀の親分か。つまいつも通りだけど

？何で親分……

「ワリーワリー。じゃあ行こつか

「そんできー、まためっちゃリアルな夢見たんだー」

「えつまた？ あたしはなんか恐竜の夢見たよ

「えつ？ 僕も」

「えつ偶然？」

？その時オレはあまりにビッククリして問い合わせる気にはならなかつた。
？まさかミサキもドリームワールドとやらに関係していのだろうか。

「オハヨー」

？その一言から“いつも通り”の学校生活が始まった。

「では教科書のハページを開いてください」

「二組の子が倒れたつて！」

？昼休みが始まつてすぐの事だった。

？隣のクラスの女子の声が“いつも通り”の学校生活を狂わせた。

? ミサキは一組。

? まさか。

? 冷や汗をたらしながら全力で一組へ向かう。

? すると教室から一人の女子が運び出された。

? ミサキだ！

? 人ばかりであまり見えなかつたが、確かにそつだつた。

? もつと近くに寄つてみようと試みたが、先生が来て皆を教室に戻させた。

「えー、さつきの件だがー ただの貧血みたいだ。大丈夫だ」

? ホツとして、一息ついた。

? 良かつた。

? 放課後すぐさま保健室へ向かつた。

「ミサキ！」

? 一番手前のベッドにいた。

? ミサキは満面の笑みでオレを迎えた。

「大丈夫だよ。いつもの事だから」

「バカ！ 大丈夫なわけないだろ！ マジ心配したんだから

「ご……ごめんね」

? ミサキの笑顔を見たら、何だか心配したオレがバカみたいに感じてきた。

だが……夜の事だつた。

「ミサキちゃんが倒れたつて……」

? 母の声が家中に響いた。

? 嫌な予感がした。

? 今回は何か違う。

? オレ達家族はミサキが運ばれた病院に駆けつけた。

? 今、ミサキは苦しみでるらしい、

しかも原因は不明。

? 数時間後……

? ミサキが少し落ち着いてきたという報告を聞いた。

? でも、動けないくらい危険な状態らしい。

? 危機的状況だが、疲れがピークに達してオレは夢の世界に引きずり込まれた。

「やあヒロキ君、よく来たね」

? 前見た夢に出て来たおじいさんが田の前にいた。

「ど……ども」

「ヒロキ君、多分じやがミサキちゃんが苦しみでる理由が分かつたんじや」

「え？」

「君がこの前助けてくれたホープなんじやが、ミサキちゃんの先祖かもしくはなんらかの密接な関係があるみたいなんじや。ミサキちゃんがこっちの世界の人間だつたとかは分からぬが、アイツと影響し合つてゐる事は間違ひないと思つんじや」

? また頭がパンクしそうになつた。

? 急にこんな事言われて信じられる方が凄いんじやないか。

「じゃあミサキを助けるにはどうすればいいの？」

「じゃあまずこっちに来てくれ」

? 道具が入つてゐるリュックを背負つておじいさんの背中を追いかけ

た。

「…………」

？そこには見るも無惨な光景が広がっていた。

？荒れ果てた森林、倒れた恐竜、そして血だらけの三体のホープ。

「血が止まらないみたいなんじや、どうか助けてあげてくれ

「任せで」

？前やつたみたいに応急処置を施すと

無事、血は止まった。

？そうするとホープ達は疲労困憊だつたのか、その場に座り込んだ。

「実は、恐竜が暴走して自然を壊し始めて、それを止めるためにこいつらが闘つたんじや」

？ドリームワールドと現実の世界とでは多少の違いがあるが大概似ている。

？そうであるからこそ影響し合つてしまふのかもしれない。

？でも現実の世界では、恐竜がいた時代にはまだ小さな小さな哺乳類の生き物でしかなかつたと言われる人間だが、こっちの世界ではもう「こんなにも成長しているといった事もある。

？時代や成長のズレ、他にも色んな要素がある中で、もしここでのオレの行動が現実の世界に影響があつたのなら、ただの夢とは到底思ひつけは出来なくなるだろ？

「あい…………がと…………ひ」

？ホープが発した片言の言葉だった。

？氣のせいかもしれないが、

一瞬ミサキと重なつた気がした。

「どういたしまして」

「助かったよ、ヒロキ君。今回の任務は見事達成した。疲れもたまつてると思つからあとは休んでおくれ」

？言われた通り地面に座つて休んだ。

？しばらくすると現実の世界へと戻された。

「ヒロキ！ ミサキちゃんが元気になつたつてよー。」

「え、ホント？」

？時間はそれ程経つてはなかつた。

？やはりオレの行動がそうさせたのか。

？信じがたいがそつとしか思えなくなつてきた。

？病室にはオレをまた満面の笑みで迎えるミサキの姿があつた。

「ありがとう」

「どういたしまして」

？オレは毎日毎日ドリームワールドに行つた。
？侵入者の確保や新種の小動物の保護、
暴走した恐竜の撃退など数々の任務をこなした。
？そして時代は急速に進歩していった。
？やがて恐竜はいなくなり、ホープが世界を統一することになる。
？気付けば、あのホープはリーダーとしてバリバリ活躍していた。

? 一方でホープ達は次々と子孫繁栄を遂げていった。

? 次世代につなげる者たち。

? 次世代を担う者たち。

? オレがちょうど中学校に入学した頃に突然ドリームワールドに行けなくなつていた。

? 元々ドリームワールドを救うために呼ばれた存在であるから、きっと今は必要ないという訳であろう。

? でもいい事だつてあつた。

? ミサキはある事件の後、日に日に体が強くなつていつて今では一人で元気に登校するようになつた。

? やつぱりあのホープの状態が影響していると感じた。

? オレらは結局同じ中学校に入学したが、一緒に登下校しなくつて、実際寂しかつた。

? 朝、ミサキが迎えに来るのが当たり前だつたし、放課後にすぐ駆け寄つてくるのが当たり前だつた。

? まあお互い親友もできて、距離が遠のくは自然のことだつたけど

? 引っ越しはしなかつたが、寮での生活を始めた。

? 高校はそれぞれ違う高校に入学した。
? オレは家から近くの高校に決めたが、ミサキは遠くの高校に通うことになつた。

? 引っ越しはしなかつたが、寮での生活を始めた。

? たびたび電話をしてみると、いつも明るい声で楽しげに学校の話をしてくれた。

? やつぱつミサキと話すと安心する。

? これって幼なじみっていう関係だからこんなにも仲良くなれたのかな。

? なんで安心するんだろう。

? 時は流れた。

? 今はやりたい仕事に就くためにバイトをしながら専門学校に通っている。

? 今日は成人式。

? そして今日はミサキに会える。

楽しみにしていた。

「久しぶりだね」

「久しぶり」

「この前ねー」

? とことん話して、離れていた間のぽつかりあいた空白を埋めていつた。

? 久しぶりに地元の仲間にも会えて、話してると昔の記憶が蘇ってきて懐かしい気持ちでいっぱいになつた。

?

? その後の打ち上げにも参加した。
? 皆でワイワイできたし最高の一日だった。
? 満足満足。

?しかし……

?その最高の一日には続きがあったのだ。

?その出来事はヒロキが寝た後に起こった。

?そう、ドリームワールドだ。

「よくぞ来てくれた。ヒロキ君、久しぶりじゃのう。」

?あのおじいさんだ。

?今回はいつも紳士な服装に身を包んでいた。

「おつ……お久しぶりです。」

「おー。今日君を呼んだのは他でもない。精一杯おもてなしをさせてもらひうぞ。」

?すっかり忘れていたがそんな約束してたっけな。

?それよりいつも急でホントに気が狂うよなー。

「さあこひらく。」

?なんと田の前には堂々としたお城が建っていたのだ。

?その存在感に圧倒されたくらいだ。

?そして導かれるままに中へと入つていった。

「お嬢様がお待ちですよ。」

「え?」

?こつちの世界で待たせるような人に心当たりが無かつた。

?しかも“お嬢様”つて。

?そこにはあのホープと……ミサキ? ？

「よつ、ヒロキ」

「よひ、じゃなによ？なんでこい！」
「なんかおじいさんに呼ばれて……」

「ヒロキ……あのね」

「つ……つん？」

「す……好きなの。付き合ひてほしい。」

「いや……今すぐ結婚してください……」

？オレはどつさにことんでもないことを言ひてしまつた気がした。

？前にもこんな夢を見たような……

「では結婚式を始めるだ」

？おじいさんが立ち上がった。

？結婚式って……

「言ひたじやう？ 精一杯おもてなしをするつて。実はワシらがお主らの思いを感じとつて、この機会を『えたのじや』

？なんだかもう分からなくなつてきた。

？その後、盛大な結婚式が行われた。

「ドリームヒーローのヒロキ殿。貴公は永遠のドリームヒーローとして歴史に刻まれた。そしてミサキ殿、貴公は永遠の女神として歴史に刻まれよ。」

？一人の幸せを精一杯願つておるだ。

？ホープが近寄つてきた。

「おめでとう」

?ハツキリとした発音だった。

「ありがとう」

?…さつといひいう機会が無かつたら結婚するなんてあり得なかつた
だらけ。

?…ずっと幼なじみといひ関係でしか無かつただらけ。

?

?夢は自分自身の無意識からのメッセージであると言われる。

?夢といひものは睡眠中の奇妙な出来事のように思えるが、日常の
生活で無意識に抑止しているものが、睡眠時に開放され夢といひ形
として表れるらし。

?ミサキのヒロキへの、そしてヒロキのミサキへの強に思ひがこの
奇跡を生んだと言ふよ。

これからもよろしく！

美咲

ミサキ

これからもよろしく！

ヒロキ

大輝

(後書き)

一生懸命書きました。
アドバイス及びコメントなど
どしどしあ寄せください。
お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2646o/>

夢で逢えたら

2010年10月14日10時18分発行